

# 夕刊 警城時報

行發日七  
編輯兼發行 岡田弘成  
印刷所 警城時報社  
發行所 警城時報社  
一部金貳圓 一月金拾圓  
廣告料 一行十文字五十分鐘  
日刊(日曜祝祭日翌日休刊)

一、口腔外科  
一、レントゲン科  
中野齒科  
平市町(電五〇九)  
院長 中野 惠次

## 燃料炭不足に悩む

### 七濱の鰯加工業者

#### 各組合協議で増配方陳情

縣下に於ける重要海産加工品として國策の線に躍動してゐる鰯加工品：煮干、魚油並に干鰯は鰯魚の最盛期を迎へた事として七濱の既報の如くこれが製造に戦場さながらの舞臺を現出しているが、製造業者はこの本格的操業期に入りながら加工上必要不可欠からざる燃料炭欠乏のため今後の操業に一大暗影を投ずるに至り關係各方面ではこれが對策に腐心してゐる。燃料炭購入の如何は本縣に於ける年額二百萬圓を突破する水産加工に影響するところ極めて甚大なので燃料炭買入れは焦眉の問題であり各漁業組合では聯合協議の上近く縣へ配給の轉旋方を陳情する。

現在石城七濱の當業者約四百名は入山炭礦の機軸的援助に漸く工事を繼續するに至つたより商工の了解を得て年額同額配給は臨港軌道終點の小名川四千噸をトラックにより配給を受け得るが、實際の使用區間で同工事終了と共に引續きの十五日から實施される、取引關係について説明がある。

## 内郷羅災兒童に衣類學用品を贈る

### 小學校長會で決定

石城郡小學校長會は五日午前十部に毛皮をおさめる目的で野兎狩獎勵の件を打合せた。

大野村長を決定する村會は六日午後三時半開き滿場一致にて木田氏に決定した。

## セメント配給され 舗装工事開始

### 將來は泉驛まで計劃

小名濱町本町通りの舗装工事は、放棄しておく事は物産輸送上セメント飢饉から過渡來工事中由々しき問題なので町當局では絶してゐたが、年額二百萬圓を突破する水産加工に影響するところ極めて甚大なので燃料炭買入れは焦眉の問題であり各漁業組合では聯合協議の上近く縣へ配給の轉旋方を陳情する。

## 野兎狩獎勵

縣獵友會平支部幹事會は九日午後一時から平野會館に開き軍

## 木炭移出

### 關係事項指示

濱三郡木炭炭回業者組合は八日午後一時から平野會館に開き、物産所平野支所管内(双葉郡上岡村以南)の木炭移出業者關係業者組合、將來移出せんとする者を集め統制協議會を開き、永(二)小野正(一〇)小野重三(十)山副組長、立花平支所長、營(八)渡邊初吉(十九)片寄(十)何れも假名の未成年者は五日午後十一時五分頃同町警察署に吉田九方で現金賭け花合せ開帳中平野署に踏み込まれ一網打盡に檢査された。

## 豊間の大敷網 豊漁で張り切る

### 今後の鰯漁期待さる

豊間村大敷網は投網以來例年には北海道沖の鰯漁は非常に良好ない豊漁続きであるが、去る一で寒流に乗つて鰯の大群が本縣日には黒崎三十六尾鰯價格一萬沖を南下するので今後の大漁は回を漁獲し同村大敷網始つて以疑いなくと水産試験場で語つて來の豊大漁記録をついた。本年もるので大いに張り切つてゐる。

## 未成年者の賭博

### 四少年檢舉さる

富貴内農事實行組合、上岡農事實行組合  
一等(大麥)鈴木一久、高島亥之吉、吉田甚忠、松本吉田恒雄、  
二等(大麥)海葉藤千代、林與三郎、大野賢一、千葉タメ吉田安治、高野龍次郎、福田長一郎、吉田吉平、高橋義惠(菜種)松崎忠良(甘藍)福田藤一郎(柴雲英)吉野富衛、  
三等(大麥)福田貞藏、鈴木藤三郎、鈴木泰輔、鈴木徳藏、關場良平、戸田福之、吉村菊太郎、松崎忠一、三原長次郎、會田三郎、矢吹助義、鈴木守一、鈴木定一、薬谷泰平、(菜種)鈴木守彌、福田貞藏、小野芳太郎、關場長太、永島直義、(甘藍)會川元次郎、馬鈴薯矢吹平一、  
大平政春、吉田甚忠、二等海葉藤千代、大山黒木國一、金成清重郎、大山七十司、大和田保壽、大平繁春、三等吉田恒雄、鈴木政一、吉野富衛、會川元次郎、金成元一郎、大須賀雄一、矢吹平一、木田一郎、吉野喜一郎、戸田屋旅館に開催する。

## 本年度品評會

### 十一日褒賞授與

平野農會に於て昭和十四年度に行つた各種品評會入賞者に對する褒賞授與式は十一日午後一時平野第四小學校で舉行するが、入賞者左の如くである。

## 青年校査閱

### 木田氏決定

大野村長を決定する村會は六日午後三時半開き滿場一致にて木田氏に決定した。

## 紺屋町で部落常會

### 部常會

市內紺屋町では六日午後六時が部落常會を開き經濟戰強調運動の實施事項として左の決議をなした。

## 上遠野紙

### 一万余圓

上遠野特産上遠野紙の紙すき作業は各期を迎へ準備を急いでいるが上遠野紙は障子紙、のべ紙、傘張り紙等に用ひられる良質なもの多し一冬に一万四千圓を生産價格は二萬八千圓乃至二十圓で一万數千圓が入るわけで村農會では原料の自家栽培を獎勵してゐる。

## 四王天中將

### 大浦で講演

大浦村最勝院主職阿部宗順師主催にて来る十六日午後一時より陸軍中將四王天延孝閣下を迎へて時局に關する講演會を同院内に開催する。

## 木造船總會

### 劍道大會

四倉町新町に事務所をおく本縣木造船工業組合第二期定期總會は十日午前十時半より同町相模屋旅館に開催する。

## 鐵道關係 篤行者表彰

### 小名濱校上棟式

水戸運輸、東海兩事務所管下の篤行表彰式は東市で行はれるが、平野關係分左の如くである。

## 女車掌

### 三名至急募集

1. 未経験者に限る  
2. 委細面談  
3. 優遇す

## 郷土展覽會

### 平市人事錄

平野第四小學校は十一講堂で郷土展覽會を開く。

## 天氣豫報

今晩(北東)風後北西(風後)南西(風)變り強り小雨模様明日南西(風)後北西(風)晴れ時々曇り

精動通信

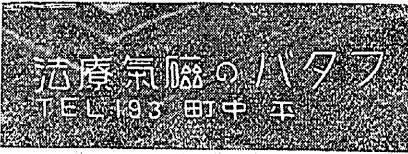
惠美須祭縁起

沿海貿易の元祖商家の守神

惠美須祭といふのは、蝦夷地(現北海道)の元祖商家の守神であるといはれます。また一説には、少彦名命が大國主命と共同して國土を經營せられたが、後分れて船に乗り常世國すなはち夷に赴かれた、夷即ち惠美須であつて、それが少彦名命であるといはれます。更に一説には、大國主命は福徳の神であつて、即ち惠美須であるといはれ、又高天原と出雲との交渉時代に當り、武甕槌神が出雲に遙上陸して強硬談判をなされた時、大國主命が「我れは隱居の身である、我が子事代主に問へ」と仰せあり、折りから事代主命は美保岬につりをしてゐられたが、兩神が往きて談じられると、命は「吾が國土を宗室に獻する」ともうされ、大義名分を明らかにせられ、船に乗りて海に入られたといふので、七福神中の惠美須様はこの事代主命であるといはれます。

正月十日に惠美須祭をなし、商賣繁盛を祈り、十月二十日には御禮祭を営みます。これを十月を「恵美須」といふので、關東には少ないやうですが、關西には西の宮の惠美須神社を初めとして、その神社も多く祭禮も亦盛んであります。商家には親戚顧客を招き家中無禮講の大賑ひを致します。近幾を根據とし中國九

強力電氣應用  
神經痛に特效



債券・公債  
兩替・金融  
多田井質店  
平市大工町 電五九一

コンボーク  
塩豚  
平市田町  
三三三三屋  
電話三三三番

新日記

昭和十五年度  
日記及年賀はがき類は用紙不足の折にも  
不拘豊當に取揃へました、買切れませぬ  
うらに御買上願ひます。

當用日記・ポケット日記  
特種日記—百數十種

新年繪はがき・年賀はがき  
一年賀用特種私製はがき—

花がるた・トランプ・百人一首  
☆慰問袋に一点きつと喜びます☆

マルトモ 柴田書店  
平市四丁目 電話一二四番  
二三四番

吸入用酸素純度99%

度量衡  
モノサシ  
ハカリ  
マス  
器量器  
体温器  
寒暖計

秤ノ取揃・鍍糸・修覆致シマス

寫眞機  
材料一式  
關内藥局  
電話四〇番

附屬産院

妊産婦入院隨時  
産科 婦人科  
木村病院  
平市新川町  
電話一六四番

油と味の香  
鹽屋  
平市古鍛冶町  
電話(營業部専用)一〇番  
一般用機二七番  
振替東京一九七五五番

明治生命磐城代理店 山崎與三郎

尚は季節料理  
平市田町 電話一七一番  
料理部

おでん 酒の店  
やき鳥 味郷  
茶めし  
平三田小路

國策線上ノ改良品  
鑄物の代用品生る  
セメント製マンホール 金三五〇種各種  
同 風窓網 金五五種各種  
平市南町二〇

發賣元 野内商會  
電話一一番

燒土管 在庫豊富

胃腸によくきく  
麻苺散  
藥 二日分 三十錢  
四日分 五十錢  
九日分 一圓

平市四丁目 小野屋藥局  
電話一四四番

平市田町(電話五二二番)  
高久病院  
院長 高久 忠  
副院長 赤羽 清  
藥局長 佐竹 菊雄

内科小兒科 外科花柳病科  
耳鼻咽喉科

内臓外科  
レントゲン科  
北川外科  
醫學博士 北川 芳夫  
平市新川町(電話四六四)

晝夜診療  
入院隨時

耳鼻咽喉科  
入院自炊の便あり  
大和田醫院  
平市南町(電話一〇七番)

産科・婦人科  
平市田町  
井坂醫院  
電話五五九番

◎入院隨時